

EU Indicators

欧州経済指標コメント：英国労働統計

発表日：2014年2月19日(水)

～判断の拠り所が欲しいから、やっぱり失業率に注目～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

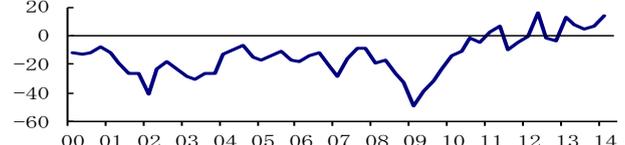
- 10-12月平均の失業率（労働力調査）は7.2%と、9-11月平均の7.1%から小幅上昇（小数点第2位で7.15%→7.21%）。振れが大きい月次計数は9月：7.1%→10月：7.0%→11月：7.4%→12月：7.2%。12月値（7.23%）が9月（7.08%）を上回ったことと、過去2ヶ月が僅かに上方修正され（10月：7.00%→7.01%、11月：7.36%→7.38%）、事前のコンセンサス予想（7.1%）対比でやや悪化した。
- 12日に発表された新たなフォワード・ガイダンスでは、①失業率が閾値の7%に到達した後も、需給ギャップが完全になくなるまでは利上げをしない、②需給ギャップを測る指標として、従来の失業率だけに頼らずに幅広い経済指標から判断する方針が示された。これにより失業率の重要度は低下した筈だが、需給ギャップを単一で測る“便利な”経済指標がある訳でもなく、市場参加者は引き続き失業率を金融政策の先行きを占う判断基準に置いている模様。昨日の消費者物価の下振れに加え、失業率の上昇を受け、市場の利上げ観測がやや後退している。
- ただ、同時に発表された1月の失業給付基準の失業率は3.6%に一段と低下（8ヶ月連続で低下）し、失業給付の申請件数も前月差▲2万8千人と着実に減少しており（15ヶ月連続で減少）、労働力調査ベースの失業率にも先行き一段の低下圧力が掛かる公算が大きい。利上げ観測の払拭には至らない。

■英国：失業率

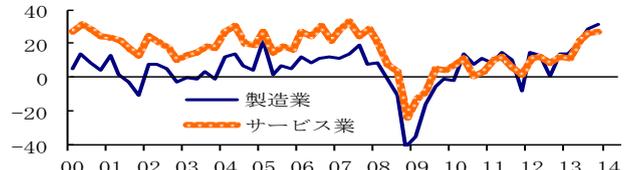


注：労働力調査基準は3ヶ月移動平均
 出所：英国統計局

■英国：CBI雇用見通し判断



■英国：商工会議所・雇用見通し判断



出所：英商工会議所、CBI

■英国の失業給付・平均賃金

	2013年											2014年
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
失業率（失業給付、%）	4.6	4.5	4.5	4.4	4.3	4.2	4.0	3.9	3.8	3.7	3.6	
失業給付件数（前月差、千人）	-9.9	-11.8	-16.2	-29.4	-36.3	-41.6	-44.7	-42.8	-34.3	-27.7	-27.6	
失業率（労働力調査、%）	7.8	7.8	7.8	7.8	7.7	7.7	7.6	7.4	7.1	7.2	—	
就業者数（前月差、千人）	10.0	48.0	-42.0	63.0	59.0	33.0	84.0	133.0	64.0	-4.0	—	
就業率（%）	71.4	71.5	71.4	71.5	71.6	71.7	71.8	72.0	72.1	72.1	—	
週当たり平均労働時間（前年比、%）	0.6	0.6	0.0	0.9	1.6	1.3	0.3	0.0	1.3	0.6	—	
週当たり賃金（産業計、前年比、%）	-0.3	3.8	1.8	0.9	0.8	0.6	0.9	1.1	0.7	1.5	—	
賃金	0.6	1.3	1.1	0.9	1.0	0.6	0.8	1.1	0.7	1.2	—	
ボーナス	-8.1	62.3	22.2	2.6	-2.2	1.3	4.3	3.0	-3.5	0.0	—	

注：労働力調査基準の失業率、就業者数、就業率、労働時間は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。